

伸銅品、電線統計とも振るわず

橋本健一郎氏リポート①



橋本健一郎氏

五月前半は四月の米ADP民間雇用者数は一六・九万人増加、(予想は二〇万人増)だった事、ユーロ圏財務相会合でギリシャとの合意が不透明だったことなどのマイナス材料もあつたが、三月の米個人消費支出が前月比〇・四%増と増加率は市場予想(〇・五%)に届かなかった事、前日発表の一〇三月期の実質国内総生産(GDP)の急減速も引き続き意識されたことからの利上げ時期の後退観測や、米週間新規失業保険申請件数が二六・四万件に減少、予想の二七・三万件を下回った事、ギリシャのスクールレイ労働相、今月分の債務返済は実行すると言明やドル安などのプラス材料からLME銅相場は上昇、五月十五日時点で六・三九九ドル(セツル)と月初価格より一五四ドルUPの前半締めとなった。

後半は、三月のS&Pケースシラー米住宅価格指数は前年比五・〇四%上昇、四月の米新築住宅販売件数は前月比六・八%増の五一・七万件、予想は五〇・八万、五月の米消費者信頼感指数は九五・四に上昇、予想の九五・〇を上回るなど米経済指標の好調などのプラス材料もあつたが、ギリシャが来月にIMFに一六億ユーロを返済期限が迫っていることや、一〇三月期の米実質国内総生産(GDP)改定値は前期比年率〇・二%増から〇・七%減に下方修正された事から下落、六月二日現在、後半スタート価格から三八六・五ドルDOWNの五・九七〇・五〇ドル。銅建値七九万円のスタートとなった。

◆月間のドル/円レート (TTS)
一一・〇三三→一二・四九〇(円)
◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比七・五%減の七二万三、一五五台であった。
◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比一・四%増の二〇万九八八九台。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比〇・四%増の七万五、六一七戸であった。
◆貿易関連指標
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が六・三%減の三万四、一九五t、スクラップが

銅スクラップ需給
メーカーはなお買い気薄か

六三・四%増の三万五、四〇三t。

輸入

輸入は電気銅が前年比一一・一%減の三、〇〇一t、スクラップ二四・三%減の八、一六二t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比四・九%減の六万七、三〇〇t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)銅電線出荷量は、前年比三・一%減の五万七、五〇〇tであった。

■概況

【自動車生産】

四月の四輪車生産台数は七二万三、一五五台で、前年同月の七七万〇、五九一台に比べて五万七、四三六台・七・五%の減少となり、一〇カ月連続で前年同月を下回った。

四月の車種別生産台数と前年同月比は次の通り。
乗用車五九万二、二四四台で六万〇、二四六台(九・二%)の減少となり、一〇カ月連続のマイナス。このうち普通車は三五万九、五七二台で五、一九二台(一・四%)の減少、小型四輪車は一〇万九、二九九台で二万六、九七一(二・九・八%)の減少、軽四輪車は一二万三、三三三台で二万八、〇八三台(一八・五%)の減少。
トラック一〇万八、八二五台で、一五五台(一・一%)の増加となり、三カ月連続のプラス。このうち普通車は五万〇、七九六台で三、二四九台(六・八%)の増加、小型四輪車は二万六、三二〇台で四、一四台(一・六%)の増加。軽四輪車は三万一、七一九台で二、五〇八台(七・三%)の減少。

バス一万二、〇八六台で、六五五台(一五・九%)の増加となり、二カ月連続プラス。このうち大型は一、〇一一台で二八〇台(三八・三%)の増加、小型は一万一、〇七五台で、三七五台(一四・二%)の増加。
四月の国内需要は三二万九、四八二台で、前年同月比七・五%の減少であった。うち乗用車二六万三、三七六台で前年同月比一〇・一%の減少、トラック五万五、一六八台で同六・六%の増加、バス九三八台で同四五・九%の増加。

輸出は前年同月比一・一%の増加。(実績)

【自動車販売】

四月の国内自動車販売台数(軽除く)は二〇万九、八八九台で前年比一・四%増。二カ月連続プラス。うち、乗用車一・二%増、貨物二・七%増、バス二四・八%増。(六面へ続く)

(四面より続く)

【住宅着工数】

・平成二七年四月の住宅着工戸数は七万五、六一七戸で、前年同月比で〇・四％増となった。また、季節調整済年率換算値では九一・三万戸(前月比〇・七％減)となった。

・利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で分譲住宅が増、持家、貸家が減となった。季節調整値では、前月比で分譲住宅が増、持家、貸家が減となった。

・住宅着工の動向については、昨年四月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあつて、このところ前年同月比で減少が続いていたが、足下では前年同月比で二カ月連続の増加となっている。

・住宅着工は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が薄れており、緩やかに持ち直しているとみている。住宅着工については、今般の経済対策等を踏まえ、今後の動向をしつかりと注視していく必要がある。

(持家)

前年同月比では一五カ月連続の減少(前年同月比二・一％減、季節調整値の前月比では一・三％増)。

(貸家)

前年同月比では二カ月ぶりの減少(前年同月比一・八％減、季節調整値の前月比では五・四％減)。

(分譲住宅)

前年同月比では二カ月ぶりの増加(前年同月比七・二％増、季節調整値の前月比では九・七％増)。

(分譲マンション)

前年同月比では二カ月ぶりの増加(前年同月比二四・四％増)。

(分譲一戸建住宅)

前年同月比では二カ月連続の減少(前年同月比七・九％減)。

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比四・九％減の六万七、三〇〇t。このうち、内需五万五、三二一tで五・八％減と、六カ月連続マイナス。輸出一tで九・九tで一・九％減と、九カ月ぶりのマイナス。品種別では、銅条二万一、一二〇tで一・〇％増と、二カ月連続プラス。黄銅棒一万五、七七五tで五・九％減と、九カ月連続マイナス。最近の傾向として、住宅関連設備の昨年の消費税アップに伴う需要の先食いから銅管、黄銅棒が前年対比でマイナスが続いている。

【銅電線出荷量】

前年比三・一％減の五万七、五〇〇t。うち、国内一・一％増、輸出が五八・七％減。部門別では、通信六・一％増、電力三八・六％増、電気機械七・六％減、自動車五・九％減、建設電版二・七％増、その他内需六・一％減。

【輸出】電気銅輸出が前年比六・三％減の三万四、一九五t。銅スクラップは六三・四％増の三万五、四〇三t。

【輸入】電気銅が一・一％減の三、〇〇一t。スクラップは二四・三％減の八、一六二t。

【見通し】

・自動車は生産が前月に続き減少の七・五％減。

五月の国内販売台数が前年比一・四％増。生産が一〇カ月連続マイナスの中、販売が二カ月連続プラス。輸出も一・一％増とプラス。この販売増の流れが五月中も続くか今後の動向に期待。

・新設住宅着工数は前年比〇・四％増。季節調整済年率換算値で九一・三万戸(前月比〇・七％減)。前年比で二カ月連続プラス。季節調整済換算では一カ月ぶりのマイナスに転じた。住宅着工は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減の影響が薄れており、緩やかに持ち直しているとみている。

・伸銅品二カ月連続マイナスの前年比四・九％減。銅条は輸出を中心に堅調さが見られたが、黄銅棒、銅管は住宅関連の低調を受けて前月に続き調整が続いた。今月も伸銅品生産は板条の増加、輸出に支えられている面もあり、内需が急回復するとは考えにくい。住宅着工が二カ月連続にプラスだったことから今後の動向に期待したい。

・輸出は二二〇・二五円(TTM)レンジの大幅な円安トレンドからスクラップが大幅増加した。輸入は内需の不透明感や大幅な円安に伴う割高感が減少したとの見解。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は、電気銅建値が八二〇円から七九〇円まで下落した過程で塩漬け玉が発生したが、伸銅品生産の低調に伴い発生薄のトレンドは変わらず。モノによっては在庫過多のものもある。

・メーカー需要は自動車、住宅販売ともに前年比でプラスだったが、足元の製品受注が改善していないとの事でまだ先行き不透明感が高く買い気薄。

【価格・為替予想】

今月は、アメリカの利上げ時期、ギリシャ債務問題に左右される。

米利上げ時期に関しては先月の時点ではまだ六月説が残っていたものの、すでに六月に入っており、今月に利上げが実行されることはない。ただ米消費者物価指数(CPI)コア指数が予想を上回ったことや、FRBイエレン議長が米経済はIQQの減速から持ち直すとし、年内利上げの見方が台頭。年内利上げの可能性も高い。

ギリシャの債務問題に関しては、今月中にIMFへ一六億ユーロの返済が迫っているが、返済の資金はなく欧州諸国との資金借り入れについて現在も交渉中。現状どうなるかの判断はできない。

それらを踏まえた六月の銅価格は、米FRBの利上げ時期が来年以降に後退し、ギリシャがIMFへの返済をした場合、六月高値の六、四〇〇ドルを予測。いずれの場合も六、〇〇〇ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合、もう一段安値の五、八〇〇ドル。

為替は、米FRBの利上げについて年内説が台頭、好調な米経済指標やギリシャ債務問題でのユーロ安から五月中もドル高傾向がつづくのではないかと。

今後、米経済指標の悪化が進んだ場合、上値は二二〇円台。下値はギリシャが今月末のIMFへの返済ができなかった場合、一二七円台を予測(TTM)。銅建値に関しては七四〇・八六〇円程度と予測している。